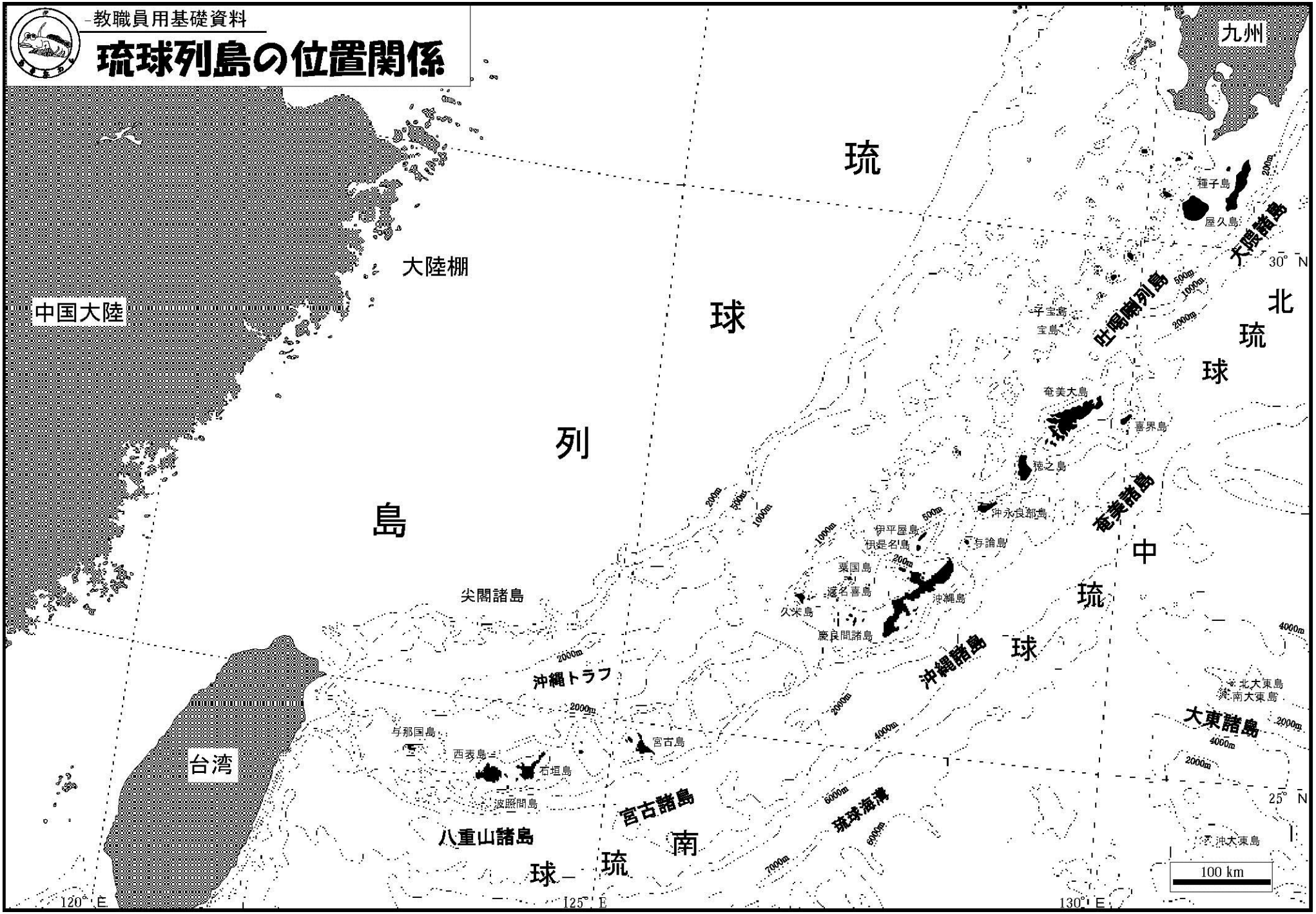
琉球列島の位置関係


九州
琉
球
列
島
大陸棚
中国大陸
台湾
尖閣諸島
沖縄トラフ
八重山諸島
宮古諸島
琉球海溝
沖縄諸島
吐噶喇列島
大隅諸島
奄美諸島
大東諸島
北
琉
球
中
琉
球
南
琉
球
種子島
屋久島
子宝島
宝島
奄美大島
喜界島
徳之島
沖永良部島
与論島
伊平屋島
伊是名島
粟国島
渡名喜島
久米島
慶良間諸島
沖縄島
北大東島
南大東島
沖大東島
与那国島
西表島
石垣島
波照間島
宮古島
30° N
25° N
120° E
125° E
130° E
100 km

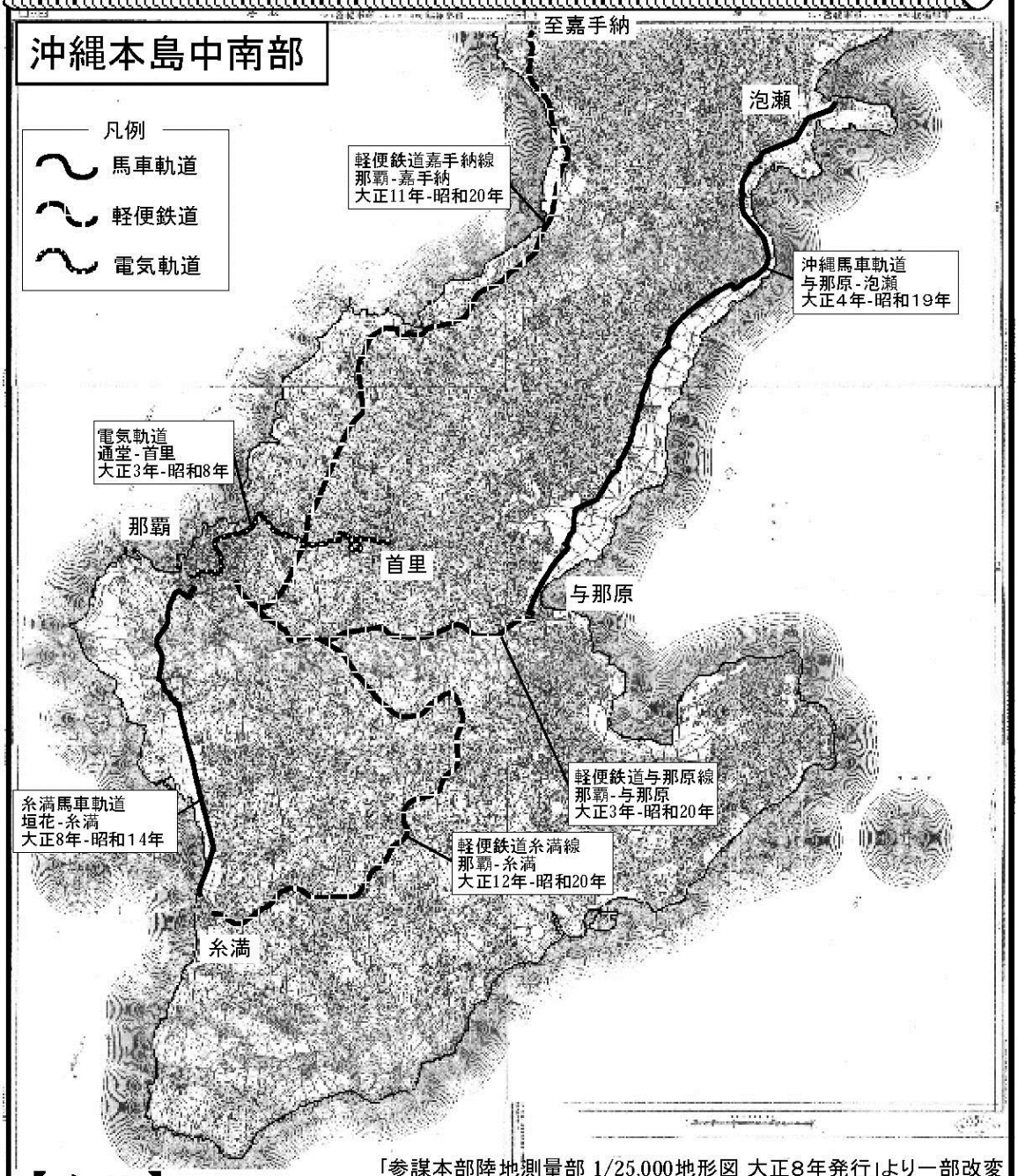
ワークシートNo.基ー1

昔の沖縄の鉄道路線図

年　組　グループ名：

日時：平成　　年　　月　　日

地図シート　基礎資料　1919年（大正8年）



「参謀本部陸地測量部 1/25,000地形図 大正8年発行」より一部改変

【メ　モ】

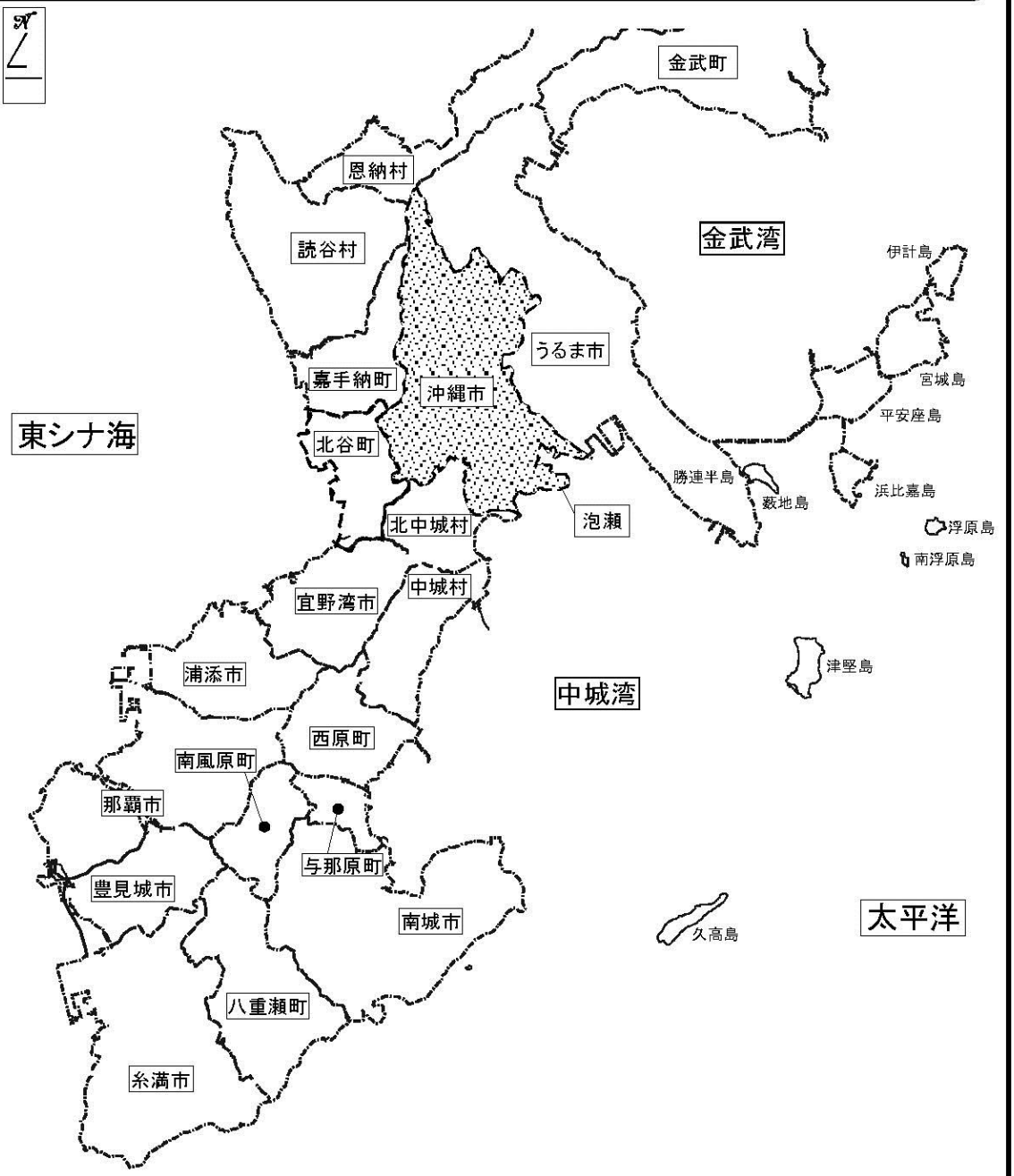
ワークシートNo.基ー2

中城湾とその周辺市町村の位置関係

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート 基礎資料



【メ　モ】

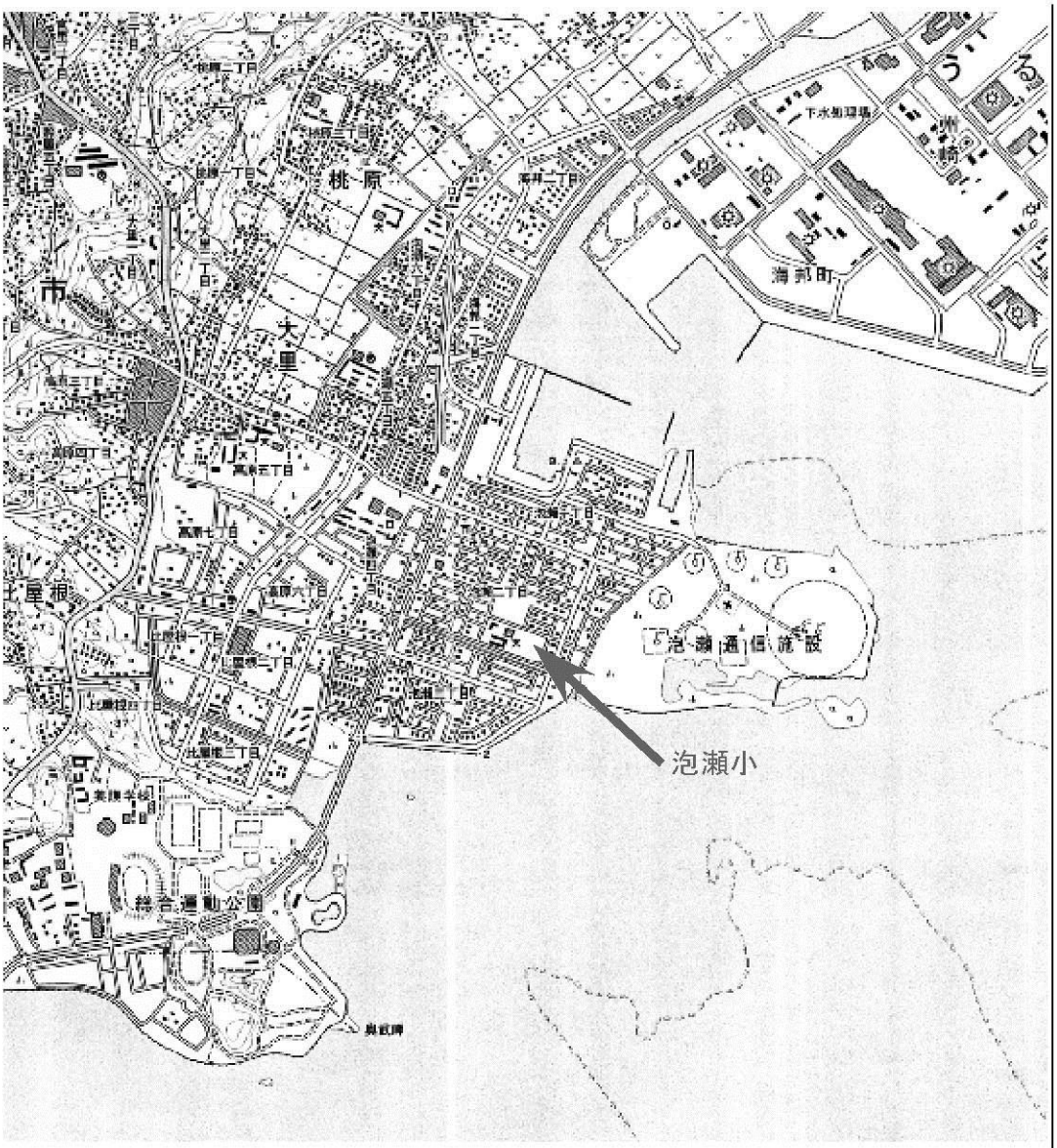
社会ワークシートNo.3 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組　グループ名：

日時：平成　年　月　日

地図シート　2005年（平成17年）　今から（　　）年前の地図



「国土地理院 1/25,000地形図 沖縄市南部 平成17年発行」より

【メ　モ】 ほぼ今の泡瀬、人工島はまだない

社会ワークシートNo.4 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1999年(平成11年)　今から(　　)年前の地図

「国土地理院 1/25,000地形図 沖縄市南部 平成12年発行」より

【メ　モ】部分的に返還された飛行場跡のうち、5，6丁目の区画整理が終わり、1，2，3丁目には入居が進む。(クロレラ工場は区画整理でなくなる)

新港地区の埋め立てがほぼ終了。

泡瀬小学校開校(1993年4月)、
沖縄東中学校,美里工業高校の横の石垣は昔の海岸線

社会ワークシートNo.5 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1993年(平成5年)　今から(　　)年前の地図

「国土地理院 1/25,000地形図 沖縄市南部 平成5年発行」より

【メ　モ】海邦国体(1987年)の開催に伴い、県総合運動公園、泡瀬ベイストリートが整備されている。比屋根湿地が形作られる。

泡瀬ベイストリートが一部完成、海邦町1, 2丁目、新港地区の埋め立てが始まっている。

泡瀬小学校はまだできてない(1993年4月開校)

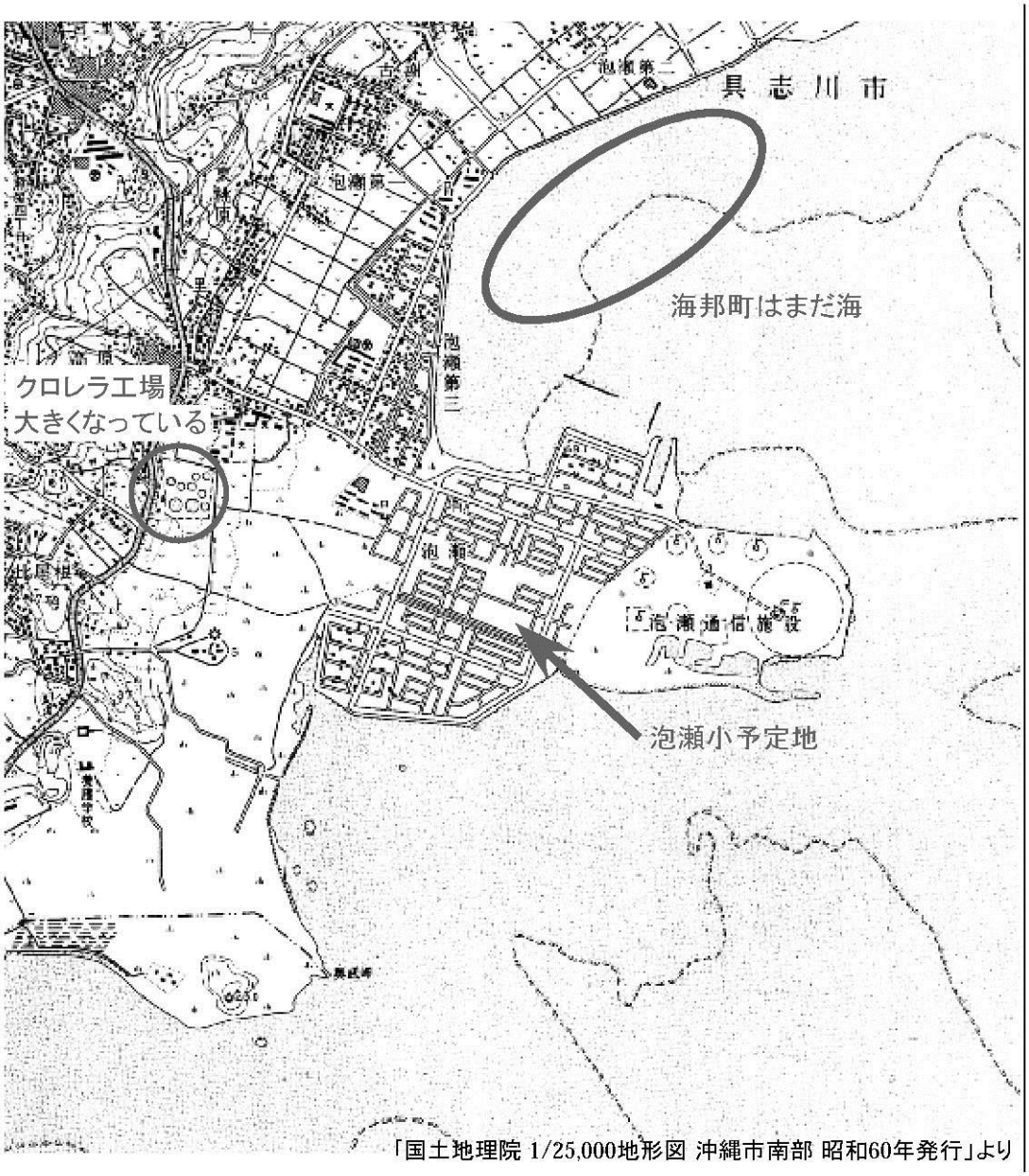
社会ワークシートNo.6 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1985年(昭和60年)　今から(　　)年前の地図



「国土地理院 1/25,000地形図 沖縄市南部 昭和60年発行」より

【メ　モ】部分的に返還された飛行場跡のうち、1、2、3丁目の区画整理が始まっている(4, 5, 6丁目はまだなく一面の湿地・荒地環境であった)。

泡瀬ベイストリート、比屋根湿地、海邦町はまだ海

泡瀬小学校は予定地がわかるがまだできてない

社会ワークシートNo.7

先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1973年(昭和48年)　今から(　　)年前の地図

「国土地理院 1/25,000地形図 沖縄市南部 昭和49年発行」より

【メ　モ】部分的に返還された飛行場跡(総合運動公園のあたりに滑走路の跡が見える。あちこちに電波塔"δ"の記号があり、今より大きな通信施設であったことが判る。

泡瀬3丁目はまだ海、仕切りを作って埋め立てをするところ。泡瀬漁港もまだない

泡瀬小学校はまだなにもない。昭和28年(1953年)美東小学校が高原にあった資材置き場跡に高原分校として開校

社会ワークシートNo.8 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1948年(昭和23年)　今から(　　)年前の地図

「進駐米軍 1948年作成 1/4,800地図」より

【メ　モ】

終戦後すぐに泡瀬地区に飛行場が建設された。それに伴い多くの変化(No.9と比較)が生じている。国道329号線は軍道13号線という名前であった

泡瀬3丁目はまだ海、塩田で塩を作っていた。塩炊き小屋、塩田が見える

美東小学校の場所が飛行場用の資材置き場となっている。
道路の見渡せる高台に"TANK"(戦車)が配置されている。

社会ワークシートNo.9

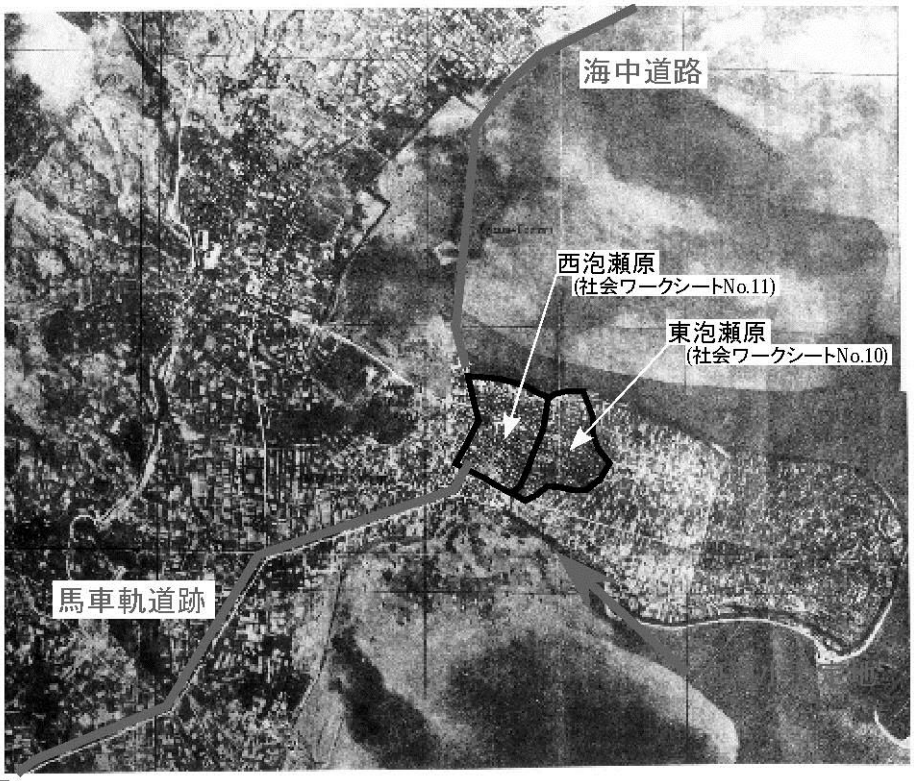
先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1919年(大正8年)　今から(　　)年前の地図



米軍は昭和**19**年（**1994**年）９月にすでに航空写真を撮影していた。写真には泡瀬の街と塩田、県道、内海（現泡瀬第三）そして畑へ通じる道が写しだされている。

「写真集 ふるさと泡瀬
泡瀬復興期成会」より

【メ　モ】終戦間近に撮影された米軍の偵察用航空写真。当時の集落の規模などがよくわかる。泡瀬のほとんどが畑になっている。

泡瀬集落は黒い線で囲った部分。3丁目の付近に多くの塩炊き小屋が見える。

大正5年から与那原ー泡瀬間で運行されていた馬車軌道(昭和5年に同区間にバスが乗り入れ廃れて行く)に代わりバスが運行。泡瀬より先に行くため海中道路が整備された

社会ワークシートNo.10 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1943年(昭和18年)　今から(　　)年前の地図

東泡瀬原の屋敷配置復元図(昭和18年ごろ)No.1

1949年に地積図を基に昭和18年頃の泡瀬の屋敷配置を復元したものです。

「泡瀬史 泡瀬復興期成会」より

【メ　モ】

当時の集落の住宅地図、現在と比べるとその規模は小さいものの当時としては大きな集落であった。

社会ワークシートNo.11 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1943年(昭和18年)　今から(　　)年前の地図

西泡瀬原の屋敷配置復元図(昭和18年ごろ)No.2

1949年に地私図を基に昭和18年頃の泡瀬の屋敷配置を復元したものです。

「泡瀬史 泡瀬復興期成会」より

【メ　モ】

当時の集落の住宅地図、現在と比べるとその規模は小さいものの当時としては大きな集落であった。

社会ワークシートNo.12

先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1935年(昭和10年)　今から(　　)年前の地図

「泡瀬史 泡瀬復興期成会」より

【メ　モ】

当時の集落の住宅地図、現在と比べるとその規模は小さいものの当時としては大きな集落であった。

社会ワークシートNo.13

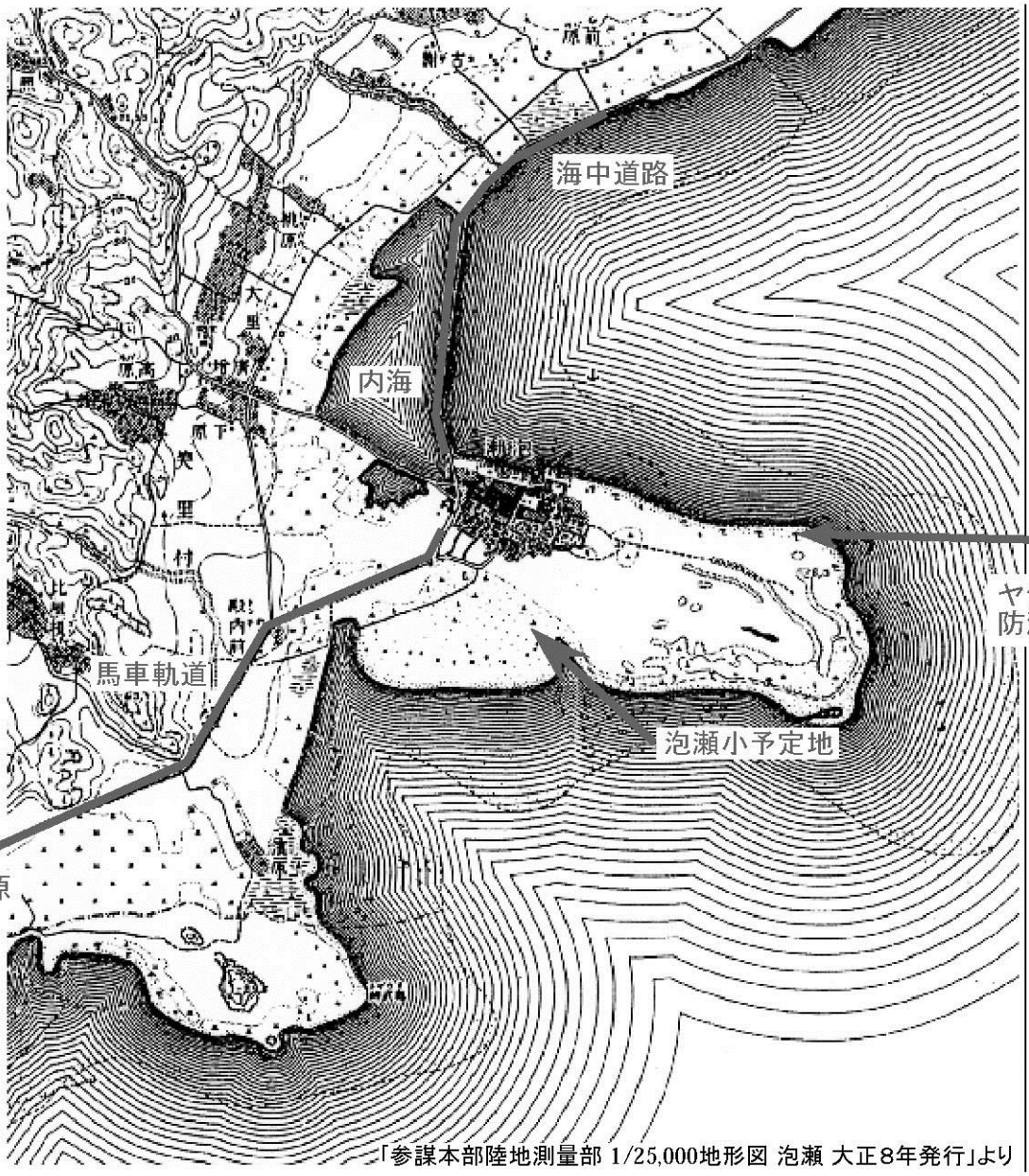
先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組　グループ名:

日時:平成　　年　　月　　日

地図シート　1919年(大正8年)　今から(　　)年前の地図



「参謀本部陸地測量部 1/25,000地形図 泡瀬 大正8年発行」より

【メ　モ】泡瀬半島を縁取るようにヤシ類"ℭ"の記号がある。これは寄せてきた砂をとどめて土地を拡大させる防潮林としてアダンを植えていたもの。

泡瀬集落の規模は大正時代(No.9)あまり変化がない。3丁目の付近のつぶつぶは塩炊き小屋。

大正5年から与那原ー泡瀬間で運行されていた馬車軌道により交通のターミナルとして発展。海中道路で仕切られた海(泡瀬5, 6丁目)は内海(うちうみ)と呼ばれていた。

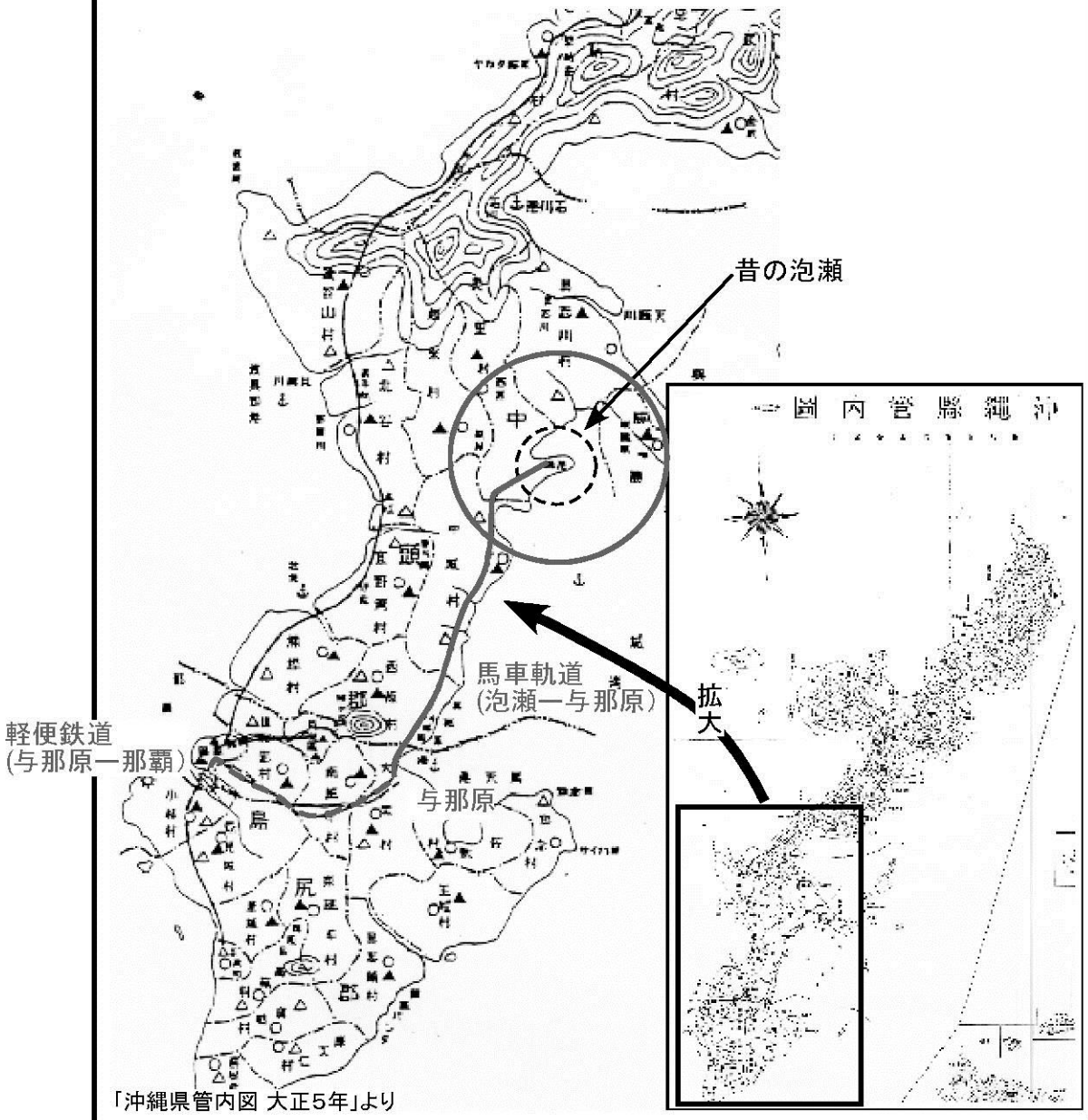
社会ワークシートNo.14 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1916年(大正5年)　今から(　　)年前の地図



「沖縄県管内図 大正5年」より

【メ　モ】

大正5年の地図。No.15の地図(明治18年:1885年)と比べると泡瀬が島から陸続きの半島になっているのがわかる。集落単位も間切から村へ表記が変わっている。

交通網の整備が進み泡瀬ー与那原間で馬車軌道が運行していた。与那原からは軽便鉄道が那覇まで伸びていた。

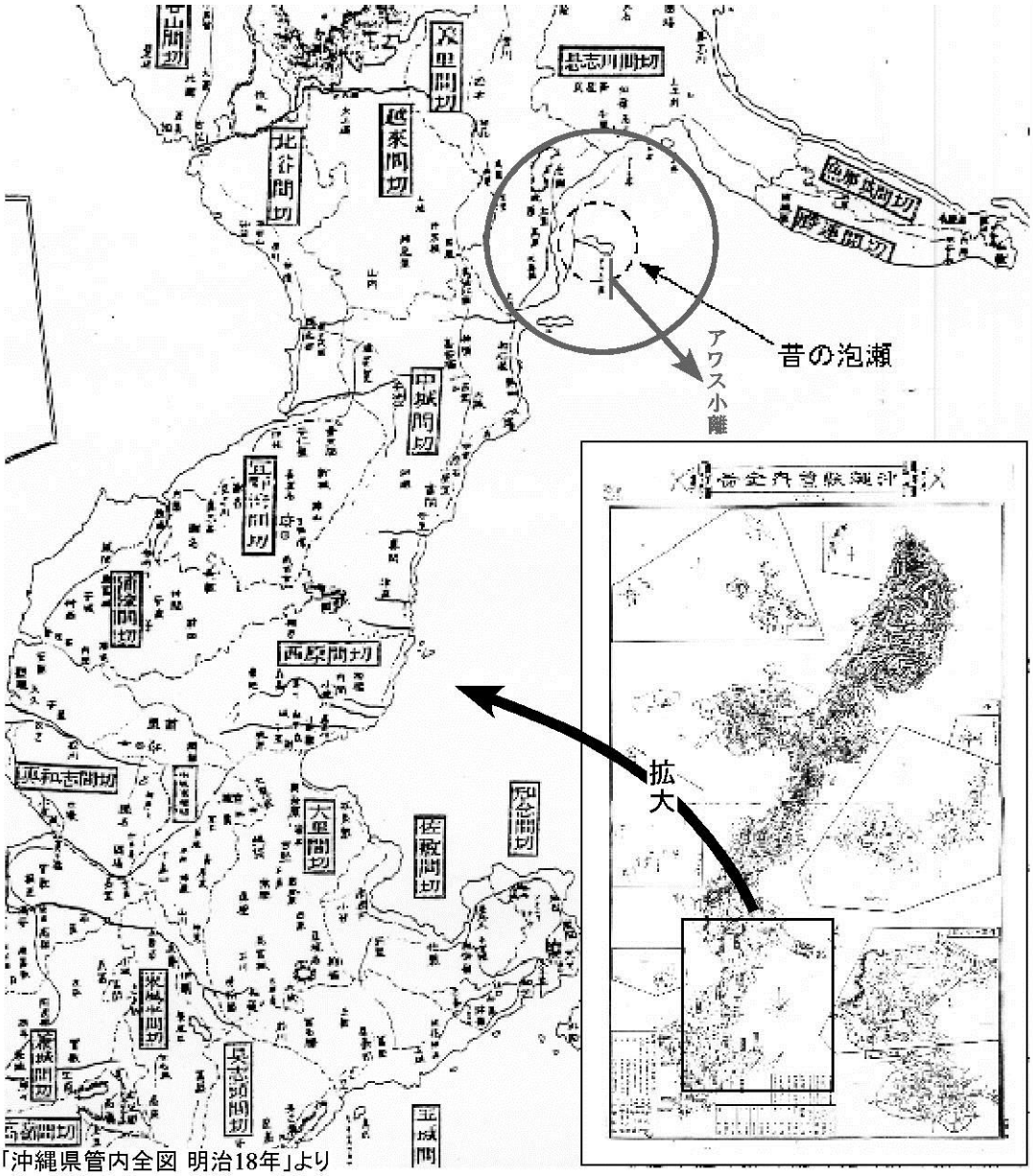
社会ワークシートNo.15 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1885年(明治18年)　今から(　　)年前の地図



「沖縄県管内全図 明治18年」より

【メ　モ】

明治18年(1885年)の地図。江戸時代が終わり近代国家となって初めての地図。当時は村、市などではなく間切(まじり)という集落の単位で区切られている。

泡瀬は美里間切(後の美里村)の先に浮かぶ"アワス小離"という島である。

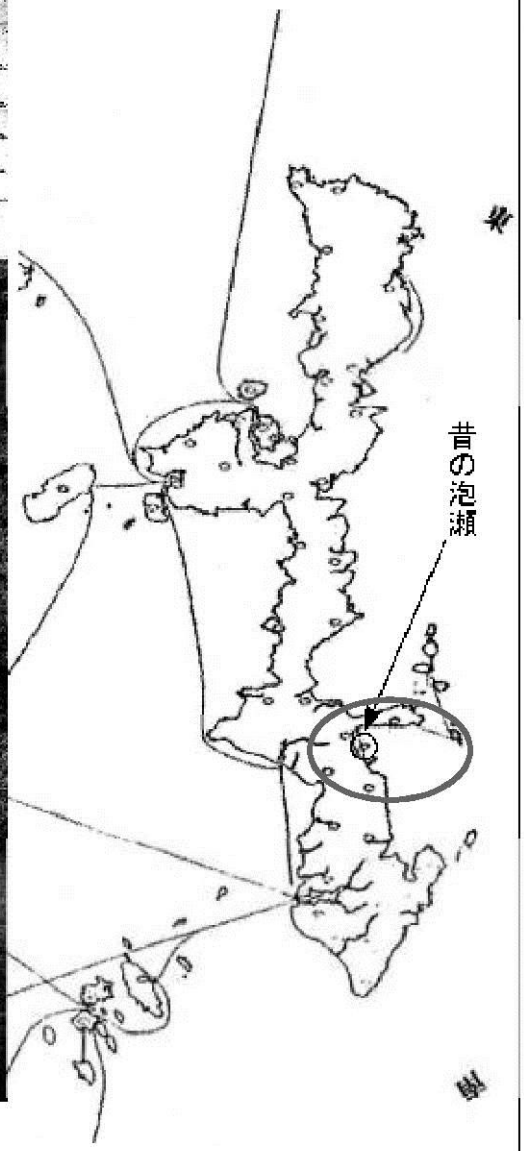
社会ワークシートNo.16 先生用あんちょこワークシート

移り変わり班

年　組 グループ名:

日時:平成　年　月　日

地図シート　1644～1647年(正保)　今から(　　)年前の地図



正保琉球国絵図　東京大学資料編纂所蔵

【メ　モ】江戸時代　正保(1644～1647)の沖縄島の地図　わかりにくいかもしれないが泡瀬が島として描かれている(明治20年ごろ半島になる)。